

- 27:13 悪者の神からの分け前、
横暴な者が
全能者から受け取る相続財産は
次のとおりだ。
- 27:14 たとい、彼の子どもたちがふえても、
剣にかかる。
その子孫はパンに飽き足ることはない。
- 27:15 その生き残った者も死んで葬られ、
そのやもめらは泣きもしない。
- 27:16 彼が銀をちりのように積み上げ、
衣装を土のようにたくわえても、
- 27:17 彼がたくわえたものは、
正しい者がこれを着、
銀は、罪のない者が分け取る。
- 27:18 彼はしみが建てるような家を建てる。
それは番人が作る仮小屋のようだ。
- 27:19 富む者が寝ると、もうそれきりだ。
彼が目を開くと、もうそれはない。
- 27:20 恐怖が洪水のように彼を襲い、
夜にはつむじ風が彼を運び去る。
- 27:21 東風が彼を吹き上げると、彼は去り、
彼をそのいる所から吹き払う。
- 27:22 神は容赦なくそれを彼に投げつけ、
彼は御手からなんとかして
のがれようとする。
- 27:23 人々は彼に向かって手をたたき、
彼をあざけて、
そのいる所から追い出す。

ヨブのことはまるでツォファルのヨブに対する非難（20章）のようです。ヨブは彼の代わりに語ることによって、ツォファルの非難が実は彼自身に降りかかっていることを暗示しています。
ツォファルたち友人こそ、ヨブが「私の敵は不正

をする者のようになれ。」と言った人々、すなわちここでの「悪者」です。ヨブは事細かにその報いについて述べています。

人への非難はそのまま自分に返って来るものです。また、自分は非難されるところはないと思っ
ていても、非難した人を赦せないという罪がある
のです。ルカによる福音書にあるイエス様のこ
とばを思い出しましょう。

「18:13 取税人は…『神さま。こんな罪人の私を
あわれんでください』 18:14 あなたがたに言うが、
この人が、義と認められて家に帰りました。」

義人であるのは、人の罪をあばく側でもなく、
また自分は間違っていないと主張する側でもなく、
自分の非（罪、足りなさ、不完全さ）を認めて悔
い改められる人です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願い
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

